

第1回「さまざまな分野から機械の知能化をとことん議論する分科会」開催報告

高橋

■開催日時：2017年11月24日（金） 13:00~20:00

■開催場所：東京電機大学（東京千住キャンパス，北千住）

■参加者（敬称略）

主査：高橋 宏（湘南工科大学）

幹事：桑名 健太（東京電機大）

有坂 寿洋（日立製作所）

五十嵐 洋（東京電機大学）

三枝 省三（就実大学）

佐藤 太一（東京電機大学）

立田 真一（東芝）

橋口 原（静岡大学）

五十嵐先生の研究室学生 5名

■分科会テーマ「ヒューマンインタフェースに関わる話題」

■分科会概要

参加者より研究分野，業務分野，関心分野などについてご紹介いただき，そこでの話題から質疑応答を行い，様々な話題に関する議論を行った。



■ディスカッションの概要

- 1) 高橋：意識下にさりげなく情報を伝達する視覚的・聴覚的手法について紹介し，さらなる適用分野に関する議論を行った。
- 2) 佐藤先生：音によって人間の動作を制御する研究を中心に紹介いただき，音を中心とした新しいインタフェースに関する議論を行った。
- 3) 三枝先生：盲導犬ロボットの研究から「人間の歩行に合わせて誘導する」コンセプトなどについて議論した。
- 4) 有坂さま：EMIEW3の紹介やAIの進歩に伴うビジネス形態の変化などについて議論が行われた。
- 5) 立田さま：「人間味」「感情のシェア」などについて議論がなされた。
- 6) 橋口先生：静電型の振動発電デバイスの紹介やインタフェースとしての活用方法などについて議論した。
- 7) 桑名先生：MEMS 3軸触覚センサ付き鉗子など医療分野の研究を紹介いただき，知能化やインタフェースについての議論がなされた。

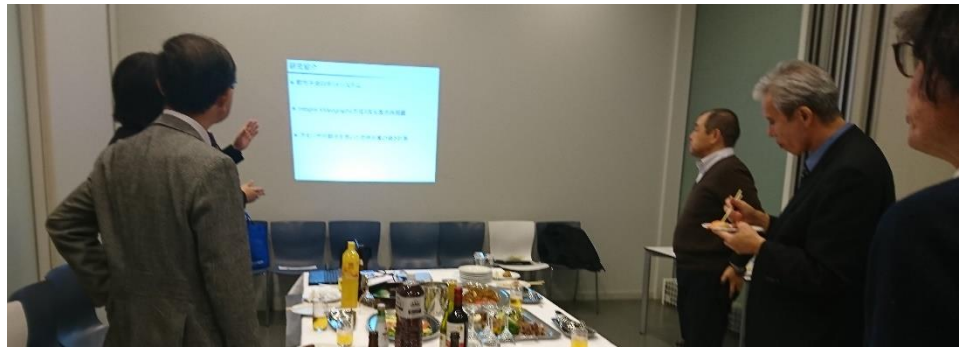
8) 五十嵐先生：「空気を読める」賢さを持った機械などの研究についてご紹介いただき、社会的知能や AI 学習などについての議論が行われた。

■感想：

13時から20時まで8名のメンバーが相互に質問しあいながら様々な議論が行われた。また、17:00からは、軽い飲食をともにしながら、くつろいだ雰囲気の中で活発に議論が行われた。特に、AIが進化した世界の中で人間にしかできない機能は何か？、あるいは、その環境下でエンジニアリングビジネスは何を目指してゆくのかなど話題で盛り上がった。

本分科会の目的は、シーズ技術とニーズ技術をお互いに提供しあい、マッチングを図ると同時に両者の視点から新しい視座を見極めることである。1回目の分科会

ですぐにそうした目的が達成されたとは、言えないが、今後、研究者、エンジニアらが相互に議論しあい、新しい方向をみつけてゆくことができそうな感触は得た。今後もまずは、十分な質疑応答を通して、とことん、お互いに議論できる場を提供してゆきたい。今回は、大学と企業からの参加者が相互に議論する好機会となった。



■次回は2018年春ごろに開催予定